

弓達 秀樹 議員

(一問一答方式)



- ① 肱北・中村地区の居住環境について
- ② ワクチン接種勧奨について
- ③ 青島の将来について
- ④ 大洲市消防について

肱北・中村地区の災害避難場所について

問 中村地区の災害避難場所である肱北コミュニティセンターは、建築構造や老朽化により地震災害の避難場所として不安があるが、市の考えを伺いたい。

答 現在、肱北・中村地区の住民の皆様が避難する本市の指定避難者は肱北コミュニティセンターとなっていますが、本施設は昭和56年5月以前の旧耐震基準で建てられた施設であり、本年1月の能登半島地震、4月の豊後水道地震、そして8月の南海トラフ地震臨時情報などを受け、9月1日より地震災害時における地区住民の避難先として喜多小学校、大洲北中学校、そして大洲市総合体育館を使用するよう変更し、8月に住民の皆様へ回覧文書によりお知らせをさせていただきました。

また、本市は株式会社アクトピア大洲及び株式会社フジの2社と、平成28年12月に災害時における物資の供給及び避難住民の受入れ等に関する協定を締結しており、平成30年7月豪雨災害時には、建物の6階に避難所を設けていただき、食事の提供もしていただいたところです。

アクトピア大洲については、令和7年1月に閉店を予定されていることから、本市としては、新たな協定先の検討をはじめるとともに、本市指定避難所である喜多小学校や大洲北中学校、若宮及び田口コミュニティセンター、そして大洲市総合体育館などについて、避難所としての環境整備や資材等の充実に努めていきます。

市の新型コロナウイルスワクチン接種勧奨について

問 一部公費負担により定期接種できる期間は、令和7年3月末までとなっている。今後も国からの通

達どおり接種を推進していくのか。

答 新型コロナウイルスワクチン接種に対する対応は、今年度より予防接種法上のB類疾病の定期接種の対象者となった65歳以上の高齢者等には、接種券と併せてワクチンの効果や副反応などを掲載した説明書を送付し、順次接種希望者に対するコロナワクチン接種を行っています。一方で、65歳未満の方は任意接種として位置づけられ、接種を希望される方は、全額自己負担で接種することとなりますので、市から個別に案内等は行っていません。

10月末現在の市内におけるコロナワクチン接種状況は、対象者1万5,216人に対し、接種者は856人、接種率は5.6%であり、インフルエンザの接種率13.6%と比較しても現段階での接種率は低調となっています。

本市としては、予防接種法上のB類疾病の定期接種における個人の発病または重症化を防止し、併せてその蔓延予防に資することという目的の下、接種希望者が円滑に接種できるよう、定期接種の環境整備に努めていきたいと考えています。

定期旅客船「あおしま」について

問 長浜港から運行している定期旅客船あおしまについて、仮に青島の島民が1人になっても、暮らしを維持するために運行を継続してもらえるのか。

答 令和5年4月1日に改正された離島振興法では、小規模な離島の島民が、日常生活を営むために必要な環境の維持等が図られるよう適切な配慮をするよう規定されています。

島民の皆様の継続的な生活の維持を基本としながら、どのように島の活性化につながる交流人口や関係人口を増やす取組を行っていくのか、島民の皆様や地元まちづくり団体、有識者の方々と話し合いながら、実施可能な振興方針を定め、離島指定解除としないよう取り組んでいきたいと考えています。

定期旅客船あおしまは、長浜本土と青島を結ぶ唯一の航路として、本市が100%出資している第三セクターの青島海運有限会社が運営しており、旅客定員は34人で、長浜港を母港として1日2往復運航しています。定期航路は島民の方の生活に欠かせないものであるため、航路の確保に努めていきたいと考えています。